

美しいまちづくりに最新鋭機



1日80トンの焼却能力

三島、比江など地元の協力で

私たちのまちは、私たちの手で美しく――。

ゴミ戦争のなか、地元三島、古市、西島、廿枝そして比江地区などの人たちの献身的な協力で、念願のゴミ焼却場が実現しようとしています。これは香南清掃組合（組合長金堂南国市長）が総事業費四億余万円建設するもので、四十九年一月には操業にとりかかれそうです。この施設は田熊ゴミ焼却プラントの機械が、すでに尼崎市、吹田市などでとり入れられ、無煙、無臭、無菌の公害のない焼却施設として好評をえているものです。これが実現について、市民のよりいっそうの協力が強く望まれています。

ゴミ焼却場の完成予想図

市長は、ことし三月定例市議会の施政方針演説で、「都市の主

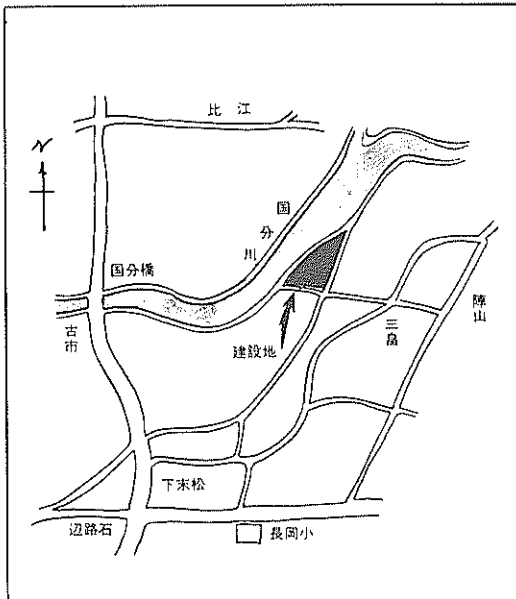
多様化してきました。

このため収集が不十分、不均衡となり、現在収集しているものは六千七百世帯、二万五千八百人と市全体の五四割でしかありません。こうした処理能力の貧弱さに加えて、産業廃棄物の膨大化、処理に問題のある粗大ゴミ、ポリやビニール類などが急増、その種類も

国分川ぞいの廿枝へ

市では処理を必要とする家庭用のゴミが一日四十二ト、小型タンクが二台分が排出されます。ところが、これを焼却する能力は一日七ト、あとは土地を掘って埋めたとていう原始的な方法で処理しています。

国分川ぞいの廿枝へ



ゴミ焼却場建設地

人は人間である。人間尊重を中心

に、道路、上下水道、環境衛生など生活環境基盤を整備、緑、清らかな水、青い空、輝く太陽と文化のあり高いまちの建設に全力投球する。」と宣言しました。

その月の三月十八日、浜改田漁業組合は、第一、第二放水路を金網で封鎖、ゴミ公害への非常手段に訴えたことは、記憶に新しいものがあります。

こうしたゴミ公害に対する市民の要求、要望はきびしいものがあり「市民のモラルの低さもさることながら、川へ公共用地へ捨てるなどということなく、それ以前の対策を県や市に十分講じていただくことが、ゴミ公害をなくする唯一の方法だ」

「広報六月号武市生、」

「ゴミ問題は市政の中で優先してやるべき時代だ。市民はほとんど手を焼いている。」

「広報七月号田所章、など、ゴミ問題は大きくクロースアップされました。」

そして、「私たちのまちは、私たちの手で美しく」と、毎月第二日曜日を「斉清掃の日」と決め、市民総ぐるみでまちを美しくするとともに、ゴミ焼却場の建設が市民運動として大きくもりあがってきま

こうした市民の強い要望と行政側のたゆまない努力が実って、この国分川ぞいの廿枝に、近代的なゴミ焼却場が建設されようとしています。

施設のあらまし

ばいじん量0・2グラム以下(基準0・7グラム以下)

集じん装置に七千六百万円

地元では一部反対の声も

この施設は、香南清掃組合(南園市、野市町、赤岡町、吉川村、香我美町、夜須町の香南六カ市町村で構成)が建設するもので、総事業費四億九千九百三十万円、用地の広さ七、六三三平方メートル(約七反七畝)鉄筋コンクリート造りの近代的な焼却場とこれをとりまく周辺は緑樹地帯、庭園、池などが配置されながら公園を思わせるものです。

マルチサイクロン(普通集じん器)と電気集じん器を約七千六百万円ずつ、ばいじん、ガス、その他の有害物は除かれる。ばいじん量も法律の基準では、〇・七以下ですが、〇・二以下にする計画」といっています。

しかし、周辺の市民にとって不安なのは公害問題。二月十五日、高知市の高浦谷焼却場で、ばいじん公害のため市民から「待たない」がかり、電気集じん機の取り付け問題がおきた例もあります。

これは、廃棄物の処理および清掃に関する法律で「焼却施設の煙突から排出されるガス中のばいじんの量は、温度が摂氏零度であつて、圧力が一気圧の状態に換算した排出ガス一立方メートルにつき、一日当りの処理能力が二百以上の連続燃焼式の施設にあつては〇・三以下に、その他の施設にあつては〇・七以下にする」と定められていて、この施設は八つの処理能力のため、その他の施設は〇・七以下が定められているわけだ。

また「無煙、無臭、無菌のためには、完全な燃焼が必要で、しかもわが国のゴミは水分を多く含むので、乾燥させる前に、よく乾燥させて、

おかないと高温焼却ができない。そのため、階段式ストロカがつけられ、七五〇度の高温で完全に燃焼する装置をつけた。ゴミの収集はステーション方式の袋収集のため、集積場や運搬中に道路などに散乱して不衛生になることも防げる。収集にしても運搬中も、

紙袋のままゴミピットに投入され完全密閉するので、臭気が外にも出たり、ハエの発生することもない。そのうえ「焼却炉は二基に区分され、もし故障のときでも運転を中止することのない配慮」もされていると話しています。

ゴミの全地区(田上倉・瓶岩を除く)収集ステーション方式で週二回

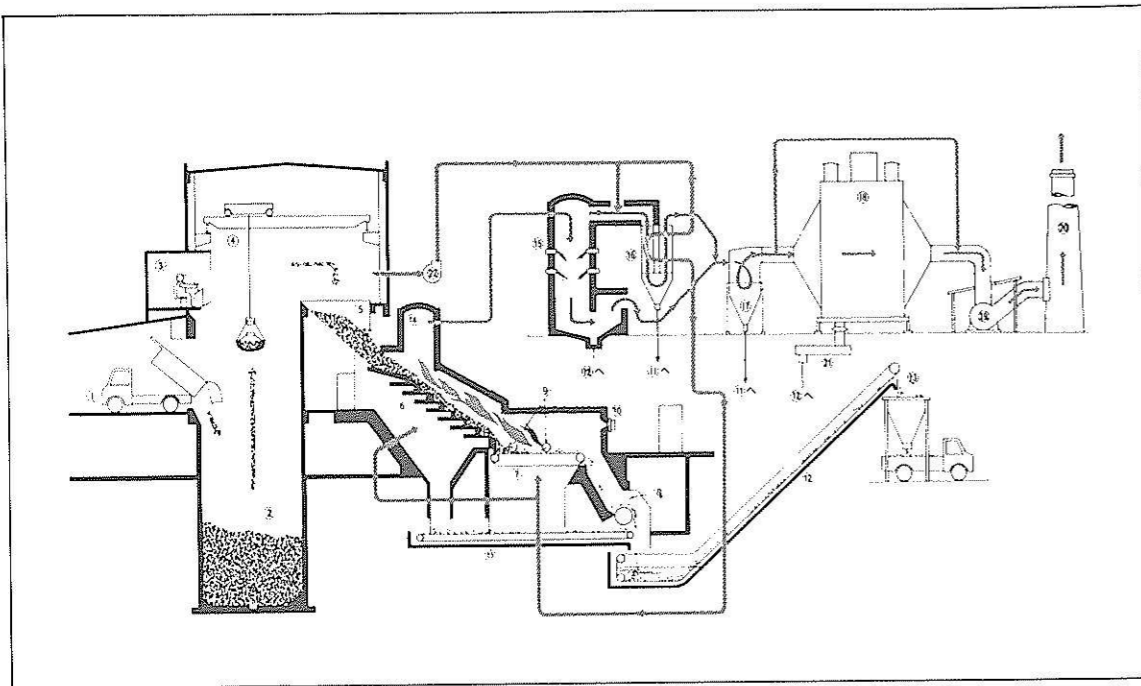
市では、ゴミ収集の不均衡をなくするため、思い切った全地区(ただし、田上倉、瓶岩地区を除く)の完全収集にとりかかるとのことになりました。

これはステーション方式といつて、教世帯(十一・二十世帯)を単位にステーション(集積場)を決め、一週間に二回、決まったコースを決まった日に収集してまわるものです。ステーションは空地、道路ぶらなを利用するに便利で、しかも収集車を駐車しても交通の妨げにならないことが必要で

この紙袋は防水加工したもので容積三十リットル、重量十キログラムまで入り、一枚十五円(予定)で販売されます。これは公害を防ぐため以外にありません。また、紙袋の中へは、空びん、空き缶などの燃えないもの、スプレーなど危険なもの絶対に入れないことが大切で、とくに市民の協力が望まれています。

ものいねぬ一票政治もものをいぬ

12月10日は衆議院議員の投票日です。



のぞかれ、誘引通風機⑩を通して煙突から排出されます。

⇒空気の流れ

- ▽ゴミ燃焼用空気は、ゴミピットから吸い込み、押込通風機②によりが内に押し込まれます。
▽押込通風機を出た空気は、空気予熱装置③により高温空気となり、乾燥ストロカ下、燃焼ストロカ下、後燃焼装置などに分配されます。

⇒灰の流れ

- ▽燃焼したゴミは灰となり、燃焼ストロカの末端から後燃焼装置⑤に落下します。灰の中の未燃物はここで完全に焼却します。
▽後燃焼室には絶えず一定量の灰がためられていますが、徐々に下部フライトコンベア⑥の内に排出されます。
▽フライトコンベアの上の灰は、水中を輸送されて灰バンカ⑦に貯蔵されます。
▽灰バンカに一時貯蔵された灰はトラックで搬出します。
▽各集じん装置で捕集された微細な灰も、コンベアまたは水洗いにより灰バンカへ輸送されます。

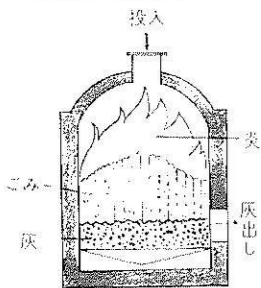
⇒ゴミの流れ

- ▽収集されたゴミは、収集車からゴミピット②に投入されて、いったん貯蔵されます。
▽貯蔵されたゴミはゴミ供給クレーン①で、各焼却炉ホッパ⑤に分配して投入されます。
▽ホッパ内のゴミは乾燥ストロカ(階段式)⑥の駆動にしたがって、ストロカの上を上部から下部に向かって反転搅拌(かくはん)されながら移動し乾燥されます。
▽乾燥されたゴミは、乾燥ストロカの末端で、燃焼ストロカ(鎖床式)⑦の上に落下し、燃焼しながらストロカの上を移動します。

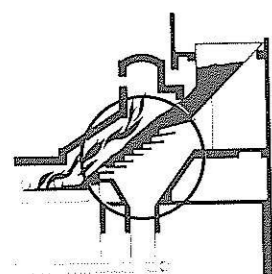
⇒ガスの流れ

- ▽燃焼ストロカの上で発生した高温ガスは、乾燥ストロカの上を流れて水分の多いゴミを乾燥します。
▽燃焼室を出たガスは、ガス温度調節装置⑧によって約320℃の温度に下げられて焼却炉から排出されます。
▽焼却炉から出たガスは、各種の集じん(塵)装置⑨⑩でちりが

《旧式の固定炉》



《階段式の乾燥ストロカ》



無煙、無臭、無菌の3要素をみたすためには、完全に高温焼却することが必要です。そのためには燃焼過程に入る前に、ひっくりかえし、よくかき混ぜ、すべて一様に乾燥させておかないと高温焼却できません。この装置は、旧式の固定炉(上図)とちがって、階段式になっているところが前後に動いて均一に乾燥させる仕組みです。